

令和7年度第2回江別市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和7年10月2日（木） 午後2時～午後2時30分

場 所：江別市保健センター3階会議室

出席者：藤野委員、金子委員、齋藤委員、山本委員、松本委員、久保田委員、高橋委員、岡委員
計8名

事務局：金子子ども家庭部長、深見子ども家庭部次長、気境子育て支援課長、北島子育て支援係長

傍聴者：1名

1 開会

（藤野会長）

ただいまから、令和7年度第2回江別市子ども・子育て会議を開会いたします。
議事に入る前に、傍聴を希望する方がいますので、傍聴を許可したいと思います。
発言権は無く、傍聴のみということで入室を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

【「異議なし」との声】

それでは、傍聴を許可いたします。
傍聴者の入室をお願いいたします。

2 議題1 ワークショップの実施結果について

（藤野会長）

それでは、議事に入りたいと思います。
次第2の報告事項（1）「ワークショップの実施結果について」を議題といたします。
はじめに、事務局から説明願います。

（北島係長）

私から、報告事項「ワークショップの実施結果」について、ご説明申し上げます。資料1
をご覧ください。

はじめに、ワークショップの概要であります。本ワークショップは、子ども計画の策定
と、部会で検討を進めております子どもの権利条例の制定に向けた取組の一環として、中学
生、高校生、大学生を対象に実施したものであります。

中学生及び高校生につきましては、一つ目として、「子どもの居場所」というテーマで、
「自分にとっての理想の居場所」という内容について、考えていただきました。

2つ目として、「子どもの権利」というテーマで、「大切だと思う権利、権利の守り方」
について、考えていただきました。

なお、いずれも後藤市長も出席し、子どもたちの話を聴いたり、意見を交わしたりして
おりました。

大学生については、「若者への支援」「子どもの権利」というテーマで、「こういう若者
支援があるとうれしい」「子どもの権利を守るために必要なこと」について、考えていた
いただきました。

各ワークショップの開催日時や参加者等は記載のとおりであり、中学生は、市内各中学校

から1名ずつ、高校生は、市内高等学校から2名ずつ、大学生は、江別市にインターンショップで来られていた大学生を中心に参加いただき、いずれも2つにグループを分けて実施しております。

ページをおめくりいただき、2ページと3ページをご覧ください。

こちらは、中学生の居場所に関するテーマのうち、「こんな場所あったらいいな」という内容でワークショップを実施した結果を記載しております。

順にご紹介いたします。1つ目のグループは、自然、動物、優雅にできる、勉強、騒いでいい、施設、その他にグループ分けし、

- ・自然豊かな場所
- ・小さな水族館
- ・中高生でも楽しめる遊具がある場所
- ・話しながら勉強などができる場所
- ・ダンスや楽器が吹ける場所
- ・大きな商業施設
- ・テーマパーク

などの意見がありました。

2つ目のグループは、みんなでワイワイ系、少人数で静かに系、その他というグループ分けて、

- ・騒いでもいい図書館
- ・みんなで遊べる場所もあって、1人になれる場所もあるところ
- ・信頼できる人がたくさんいる場所

などの意見がありました。

ページをおめくりいただき、4ページと5ページをご覧ください。

こちらは、高校生の実施結果を記載しております。

1つ目のグループは、交流、施設、自習室、その他にグループ分けし、

- ・子どもの「やりたい」を応援、後押ししてくれるところ
- ・水族館や遊園地
- ・図書館の飲食OKバージョンみたいな自習スペース
- ・物知りな地域の人がいるところ

などの意見がありました。

2つ目のグループは、静かな場所、話したい・交流したい、学生が利用しやすい、商業施設、その他というグループ分けて、

- ・20時まで利用できる学校
- ・大学生と交流できる場所
- ・中高生のおこづかいで行ける場所
- ・サイゼリヤ、ユニクロ
- ・バスの本数もっとほしい

などの意見がありました。

中高生の意見のまとめを5ページ下段に記載しておりますが、理想とする居場所については、「静かな場所」「騒げる場所」の両方の意見が多く挙げられておりました。

静かな場所としては、勉強や読書ができる場所、騒げる場所としては、友達と騒いでもいい場所、音楽やダンスが楽しめる場所などの意見がありました。

一方で、本来静かな場所である自習室や図書館においても、会話や飲食が可能なスペースがほしいとの意見もありました。

1人でも友達と一緒にでも利用でき、好きなことをしたり、ゆっくりしたりと、制限が少なく、ストレスのない環境が求められていることがうかがえます。

ページをおめくりいただき、6ページと7ページをご覧ください。

こちらは、中学生の居場所に関するテーマのうち、「今ある場所がもっと良くなるためには」という内容でワークショップを実施した結果を記載しております。

1つ目のグループは、公園、トイレ、交通、Wi-Fi・通信、施設、その他にグループ分けし、

- ・公園のルールをわかりやすくしてほしい
- ・駅などにあるトレイをきれいにしてほしい
- ・植物などで道路が見えにくい場合があるので、管理してほしい
- ・Wi-Fiの使用できる場所を増やしてほしい
- ・児童館や図書館などに、高校の過去問や大学の赤本を置くとよいのではないかと
- ・お金がかからないで楽しめたらいい

などの意見がありました。

2つ目のグループは、衛生、公園設備、その他というグループ分けて、

- ・公園や商業施設のトイレをきれいにする
- ・自転車の移動が多いため、自転車を止められるスペースを確保する
- ・子どもたちの各々のタイミングで行ける場所をつくる

などの意見がありました。

ページをおめくりいただき、8ページと9ページをご覧ください。

こちらは、高校生の実施結果を記載しております。

1つ目のグループは、～館、クーラー、図書館・自習、まちづくりにグループ分けし、

- ・児童館などを活用した世代を超えた交流の場
- ・すべての学校に効果の高いクーラー設備
- ・カフェがあったり、自習スペースがある施設が増えてほしい
- ・地域のお祭りの企画側に高校生などが参加する

などの意見がありました。

2つ目のグループは、Wi-Fi、エアコン、時間、その他というグループ分けて、

- ・Wi-Fiを完備してほしい
- ・スポットクーラーなどではなく、しっかりとしたエアコンがほしい
- ・学校の利用可能時間を延ばしてほしい
- ・時間や年齢で利用を制限する

などの意見がありました。

中高生の意見のまとめを9ページ下段に記載しておりますが、今ある場所の改善策につきましては、自習スペースや図書館など、勉強する場所に関する意見が多く挙げられました。主な内容は、先ほどの理想の居場所と重複するものも多いですが、会話や飲食が可能であるほか、参考書等の設置、利用時間の拡大となっております。

生活環境については、トイレやゴミ箱などの衛生面や草木の整備などの景観、街灯の増設などの安全面についての意見もあり、環境整備が求められていることがうかがえます。

また、地域の人や異なる世代と交流ができる環境づくり、学習環境の充実なども挙げられました。

中高生のワークショップ結果を見てみますと、居場所というテーマではありましたが、結果としては、中高生の「やりたいこと、してほしいこと」をたくさん出してもらえたと感じております。

図書館や公民館などでの飲食等、既存施設の運用を見直すことで対応が可能なものもあれ

ば、新しい勉強スペースや多世代交流など、新たな取組が必要となる事項もあったかと思えます。

現在の子ども・子育て支援事業計画の中には、既に居場所に関する記述はありますが、改めて子どもたちからのニーズが高いということが分かりました。

その他、衛生面など市の取組が不十分である点も挙げられていたと思いますので、庁内周知を適切に行い、対応してまいります。

次に、少し飛びまして、20ページをご覧ください。

こちらは、大学生の若者への支援に関するテーマのうち、「困りごとと必要な支援」いう内容でワークショップを実施した結果を記載しております。

1つ目のグループは、生活、交通系、その他にグループ分けし、

- ・大学近くに飲食店が少ない
- ・料理の仕方が分からない
- ・交通費の値上がり
- ・1人暮らしで交流する機会が少ない
- ・職場体験ができる機会が少ない

などの意見がありました。

2つ目のグループは、飲食店、金銭的な支援、交通・移動で大変なこと、その他にグループ分けし、

- ・ご飯を食べられる場所が少ない
- ・住宅や食費支援
- ・車がないと移動が不便
- ・若者向けの娯楽が少ない

などの意見がありました。

ページをおめくりいただき、22ページをご覧ください。

大学生のワークショップのまとめになりますが、困りごとについては、食事や交通に関する意見が挙げられました。具体的には、飲食店が少ない、バスが時間通りに来ないなどとなっております。

また、昨今の物価高等の影響もあると思いますが、金銭的な支援を求める声もありました。

その他、気軽に行ける休憩・勉強スペースや職業体験などもありました。

ワークショップの実施結果については以上であります。今回のワークショップは非常に有益だったと思います。

子ども家庭部として、このような場を設けるのは初めてではありましたが、学生の協力もあってスムーズに進行できましたし、思っていた以上に楽しく実施でき、多様な意見をいただくことができました。

どのような手法が良いのか、考えてなければなりません。こうした子どもや若者の声を聴く取組は、継続的に実施しなければならないと感じております。

私からの説明は以上です。

(藤野会長)

事務局から説明がありましたが、委員の皆様から質問などがございましたら、お願いします。

(金子委員)

質問になりますが、中高生のワークショップの中で、地域の人や異なる世代との交流ができる環境づくりをしてほしいという話があったとのことですが、そういった活動は、ワーク

ショップに参加されるような子どもだから求めているのか、それとも多くの中高生は、そのように思っていると捉えてよいのか、どちらでしょうか。

もし、多くの中高生がそのように思っているようであれば、私を含めて市民活動を行っている方は多くいますので、何かしらのお手伝いできれば良いと考えております。

(北島係長)

今回、ワークショップを開催するに当たり、出席いただく生徒については、学校に一任しておりました。そのため、確認はしておりませんが、多くは生徒会に所属する生徒に出席いただいたものと認識しております。

そうした子どもたちの意見が、他の中高生の意見と相違があるかは分かりかねますが、少なくとも、多世代交流などを求めている子どもたちがいるということは事実であると思います。

(気境課長)

昨年度、議論をいただきました子ども・子育て支援事業計画は、こども大綱などで示されている事項を入れながら策定しましたが、若者施策が抜けておりましたので、市民参加の取組としてワークショップやアンケート調査などを実施しながら補完しようと考えているところです。

若者の範囲の中には、中高生も含まれていることもあり、ワークショップを行いました。現行の計画には、すでに居場所づくりに関する記述もありますので、市として施策を講じなければならないと考えております。

今後、具体的な中高生の居場所づくりを進めるに当たっては、ワークショップでの声を踏まえて、先ほど金子委員の発言にあったように地域の皆さんにもご協力いただきながら、進めていきたいと考えております。

(藤野会長)

大変有意義なワークショップだったようで、今後につなげていっていただきたいと思えます。

それでは、意見が出し尽くしたようですので、本件を終わりにいたします。

3 議題2 江別市子ども計画の骨子について

(藤野会長)

次に、協議事項(2)「江別市子ども計画の骨子について」を議題といたします。

初めに事務局から説明願います。

(北島係長)

私から、資料2「子ども計画構成案比較一覧」及び資料3「江別市子ども計画構成案(骨子)」について、一括してご説明申し上げます。

はじめに、A3版の資料2をご覧ください。

こちらの資料は、現行の第3期江別市子ども・子育て支援事業計画と道内各市等で既に策定を終えている子ども計画との比較表になります。

資料が細かくて、大変申し訳ないのですが、見方としては、左から二番目が江別市であり、現行の計画と比べて見て、江別市には含まれていない項目を赤字としております。

ご覧いただけますと分かる通り、昨年度第3期計画を策定いただく過程において、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援や子どもの居場所づくり、子どもの貧困対策、ヤン

グケアラー支援など、国のこども大綱の基本方針に基づいた事項をすでに取り入れているため、北海道や他市と比べても大きく不足しているものではありませんでした。

一方で、表の一番左の北海道子ども計画の第2章には、「青少年を取り巻く現状」、第3章には、目標設定に関する項目は、江別市にはありませんでしたので、含めるべきなのか検討しなければならないと考えております。

その他、近隣市の計画を見てみますと、子ども計画を策定する上では、子ども・若者の意見を聴く必要があることから、アンケート調査結果やワークショップ結果などを取り入れている自治体が多い状況です。

江別市においても、先ほどお伝えしたとおりワークショップを実施しているほか、現在、集計中ですが、アンケート調査などを実施しておりますことから、そうした取組結果を加えていきたいと考えております。

続きまして、資料3「江別市子ども計画構成案（骨子）」をご覧ください。

こちらが、江別市子どもの計画の構成案になります。

資料の左側が現在の子ども・子育て支援事業計画の構成、右側が江別市子ども計画の構成案になります。

変更すべきと考えている点をご説明いたします。

はじめに第1章「計画策定にあたって」では、現在、「こども計画への移行」という項目があり、江別市では、本計画を生かしながら見直しを行い、市としての子ども計画の策定を進める旨の記述がありますが、今年度、子ども計画の策定を行いますので、削除することといたします。

次に、第2章の「子どもたちを取り巻く現況」では、新たに今年度実施いたしましたアンケート調査結果やワークショップ結果、若者の支援機関との意見交換結果などを、北海道の計画でいうと「青少年を取り巻く現状」として、追記したいと考えております。

次に、第4章の「総合的な施策の展開」では、第2章での追記項目を受けて、新たに子ども・若者に関する記述を追加したいと考えております。

具体的な記述内容の検討はこれからになりますが、居場所づくりに関しては、中学生から大学生までのすべての世代で、同世代や多世代との交流に関する意見がありましたので加える方向で検討いたします。

また、今回の会議ではご報告できませんが、若者の支援機関との意見交換の中で、必要との声がありました若者の就労・キャリア形成に関する事項を加え、就労支援や江別市の特徴の一つとして、4つの大学あることを生かした大学連携の取組にも触れていきたいと考えております。

また、計画にはすでに、「子どもの意見が社会に反映される環境づくりの促進」という項目がありますので、新たな追記が必要かは検討が必要ですが、子ども・若者の声を聴く仕組みを設ける必要があると考えておりますので、記載が可能かどうか検討したいと思います。

一方で、北海道や他市にあったような成果指標などに関しては、子ども計画に係る部分に限らず、計画全体に影響するものですので、今回は盛り込まず、次回の計画策定の際に改めて検討していきたいと思っております。

私からの説明は以上です。

(藤野会長)

ただいま事務局からご説明いただきましたが、委員の皆様から、質問等ございましたらお願いいたします

(齋藤委員)

資料3の第2章の追加事項で、「若者の支援機関との意見交換結果」とうものがありますが、どのような機関の話を書くのか、もしくは、聞く予定があるのか、お伺いします。

(北島係長)

すでに若者の支援機関の皆さんとの意見交換を実施しており、くらしサポートセンターえべつ相談員さんと、地域若者サポートステーションの相談員さんにお越しいただき、様々なお話をお伺いしました。

各支援機関の相談員の皆さんからは、今の若者は、様々な経験や成功体験が少ないことへの対応や、就労から遠い方もいるため、そうした方へのサポートの必要性についてもお聞きしております。

(齋藤委員)

就職を目指す年代をターゲットとした方々から話を聞いたということでしょうか。

(北島係長)

今回、策定を予定している江別市子ども計画は、概ね29歳までを対象とした計画となりますので、若者の支援機関として、くらしサポートとサポートステーションの相談員の皆さんとの意見交換を実施したところです。

(藤野会長)

その他、ご意見等はありませんでしょうか。ないようでしたら、本件を終わりにいたします。

4 その他

(藤野会長)

次に、次第3「その他」に移ります。委員の皆様から何かございますか。

(久保田委員)

時間がありそうなので、お伺いいたします。

江別市では、子どもや高齢者、障がい者、生活困窮など様々な問題を持つ方へのサポートを行う、重層的支援体制整備事業に取り組んでいると思いますが、こういった効果が現れているのでしょうか。

(北島係長)

私も詳細を把握できているわけではありませんが、市としては、重層的支援体制整備事業を活用して、野幌のイオンタウン2階に障がいや生活困窮、就労などを相談できる窓口を設置したところです。

効果までは把握できてはいませんが、様々な問題を複合的に抱える方へのサポート体制が整いつつあるものと認識しております。

(金子部長)

今ほど係長から話があったことは、きっかけになるものだと思っております。市の中に健康福祉部という組織がありますが、その中に新たな体制を整備しました。

今後、重層的支援体制整備事業を活用しながら、様々な施策を展開していくこととなります。

(久保田委員)

ご説明いただき、ありがとうございます。質問した趣旨としては、これからは、子ども分野だけで話をしたり、高齢の分野だけで話をしたりしただけでは、足りない面が出てくると感じているからです。

地域には、障がいを持った方や、生活困窮している方など、様々な方が住んでいる中で、重層的に関わっていかなければ、地域が良くなっていかないと感じております。

これまでのような縦割りでは不十分と感じており、それを変えていくためにも子どもの分野で見れば、障がいや孤独・孤立などの分野との横の連携は大事だと感じております。

現在、市内には、様々な分野で活躍されている団体がいると思いますので、こうした団体同士がつながれる機会や、交流する機会がないものかと思ひ発言しました。

(北島係長)

大変重要なことだと思います。

縦割りというものは、専門性を高めたり、効率的に物事を進めたりしていくためには、とても有効だと思っておりますが、昨今は、縦割りでは対応できない複合的な問題を抱えた方が増えてきていると感じております。

私は、子ども家庭部という組織に所属しておりますが、やはり教育の分野との連携は非常に重要だと感じており、子どもの権利に関する意見交換を実施する際に、教育部と一緒に開催するなどの取組を進めているところです。

市役所の中の話をしていただきましたが、地域の中でも横のつながりは非常に重要になってくると思いますので、現状、団体同士を結びつけるような機会づくりは行っておりませんが、必要性については認識しているところです。

(久保田委員)

私自身、横のつながりを求めていますので、そういった機会づくりを検討していただきたいと思ひます。

(高橋委員)

現在においても江別市では、学童保育に携わる方が集まって研修などを行っていると思ひます。各学童から何名か参加すると大人数になってしまひますが、小さなテーブルに分けることで活発な意見を出しやすくするなどの工夫をしていると思ひます。

こうした取組は、例えば、あそびのひろばに関しては、子育て支援ワーカーズきらきらが実施するなど分野ごとではできていると思ひます。

また、8月下旬には、不登校児童生徒の支援ということで、教育部と子ども家庭部の共催で不登校児童生徒に関する意見交換会を開催してました。

行政内部でこうした連携をとっていることに感動を覚えました。不登校児童生徒への支援という分野でも実施できていると思ひます。

こうした取組は、たくさんある一方で、先ほどから話があったように、異分野同士が集まる機会は少ないと思ひます。

一堂に会する機会があれば、様々な気付きもあると思ひますので、私自身もその必要性について感じております。

(北島係長)

高橋委員にもご出席いただき、不登校児童生徒を支援している団体や、保護者の団体などの皆さんと意見交換をさせていただきました。

その中でも、子どもの居場所に関するご意見をたくさんいただきましたので、居場所づく

りに向けて、教育部と意見を交わしているところです。

子ども・子育て支援事業計画の中には、すでに居場所に関する記載はありますが、子ども家庭部だけでは解決できない問題はたくさんあると思いますので、引き続き、庁内連携を進めていきたいと考えております。

また、併せて地域団体をつなげていく役割も行政に求められていると感じましたので、そのような取組についても今後検討していきたいと思っております。

(齋藤委員)

以前、新聞で子どもの居場所づくりに関する記事が掲載されていまして。そこで紹介されていたのは、東京都豊島区にある中高生センタージャンプ東池袋という場所でしたが、その施設の中には、漫画があったり、ゲームがあったり、バスケットができた、音楽も楽しめたりするような場所があるようでした。

ワークショップの中で、こうした施設のことを知らない子どもたちも音楽ができた、友達と集まったりできるような居場所を求めていると感じました。

先ほどのジャンプ東池袋は、一人でいて昼寝をしても良く、何かを強制されない場所という紹介がありましたので、目指すものとして素晴らしいなと感じました。

自習室をつくるのも良いとは思いますが、こうした場所をぜひ作っていただきたいと思っております。

(金子部長)

子どもの居場所に関して、これまでは、江別のみならず全国的に保護者が子どもを預ける場所を確保するというところに重点を置いて、一生懸命に増やしてきた経緯があります。

これから先は、子どもが自宅やそれ以外の場所に、居心地が良いと思える場所がどれだけあるかということが大事になってくる時代になってくると思っております。

国も同様の方向性であり、そのため、昨年、皆さんと協議を行った子ども・子育て支援事業計画の中にも、可能な限り居場所の重要性について記載するように努めてきたところです。

齋藤委員がおっしゃるような居場所を作るように努力をしたいと思っておりますが、お金もかかる話にもなります。居場所に関する構想はたくさんありますが、江別市は、あまり裕福な市ではないため、少ないお金である程度整えるのか、それとも思い切ってお金をかけて整えるのか、両面を考えていきたいと思っております。

今年に入り教育委員会の職員を含めて3名で視察に行き、視察の結果報告を市長にも行っております。

我々としては、居場所づくりの重要性を認識しておりますので、それを市長や副市長にも理解いただき、必要な予算を確保の上、少しでも前に進めていきたいと思っております。

(岡委員)

少し話は戻りますが、横のつながりの重要性に関して、私は、千歳市でも緊急サポートのコーディネーターを行っています。千歳市では、子育て支援センターが主催の子育てネットワーク会議というものがあり、何回か参加していますが、民生委員や子育てに係る様々な方が誰でも参加できるものとなっており、そこで顔が見える関係づくりができています。

私もベビーシッターなどにも行ったりしますが、そこで少し心配な家庭があったときに、子育て支援課に伝えるほどではないようなものを、顔が見える関係性が構築できていれば、民生委員に聞けたりすることもできると思っております。

江別市にも千歳市のネットワーク会議のようなものがあれば、良いかと思ひ発言しました。

(藤野会長)

その他、ありませんでしょうか。なければ、事務局から何かありますでしょうか。

(北島係長)

次回の会議について、ご説明いたします。次回は、すでにメールでご案内しているとおり、10月30日木曜日の午後3時から、野幌公民館で開催いたします。

次回の会議では、素案の協議を予定しておりますので、本日ご協議いただいた骨子を踏まえて、文章をお示ししたいと思っております。

また、第4回目は、11月中旬頃に開催したいと思っております。会議日程が詰まってしまい申し訳ございませんが、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

5 閉会

(藤野会長)

それでは、本日予定していた議事は、全て終了いたしました。

以上をもちまして、令和7年度第2回江別市子ども・子育て会議を閉会いたします。

皆さま、お疲れ様でした。